

2022年9月

県内企業の景況意識調査

(第182回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

* 2022年 7～9月期〈Ⅲ期〉の実績見込み

* 2022年 10～12月期〈Ⅳ期〉の見通し

やや悪化するも、来期は改善見通し

今期（2022年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、前期比3.0ポイント減少の▲19.4となった。業種別のBSIは『製造業』で改善し、『建設業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の5業種で悪化した。

今期の業況判断BSIは、自動車関連部品の受注増加により製造業では改善したものの、仕入高騰や新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、全体としてはやや悪化となった。

来期（2022年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、今期比11.5ポイント上昇の▲7.9となる見通し。業種別のBSIは、『建設業』『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の6業種全てで改善する見通しである。

来期の業況判断BSIは、「変わらない」との回答が約6割を占めているが、受注が回復している製造業が全体を押し上げ、今期比で改善する見通し。

* 2022年 7～9月期〈Ⅲ期〉の実績見込み

製造業……………2期ぶりに改善

卸・小売業……………卸売業は悪化、小売業は改善

建設業……………2期連続で悪化

サービス業……………2期連続のプラス水準

やや悪化するも、来期は改善見通し

◎業況判断

【今期】(2022年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲19.4 (前期比▲ 3.0㊦)

<内訳>

- ・よくなった 11.0% (前期比▲ 3.4㊦)
- ・悪くなった 30.4% (前期比▲ 0.4㊦)
- ・変わらない 58.6% (前期比+ 3.7㊦)

<業種別>

- ・前期比改善：1業種 (『製造業』)
- ・前期比悪化：5業種 (『建設業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』)

今期の業況判断BSIは、自動車関連部品の受注増加により製造業では改善したものの、仕入高騰や感染症拡大の影響から、全体としてはやや悪化となった。

来期の業況判断BSIは、「変わらない」との回答が約6割を占めているが、受注が回復している製造業が全体を押し上げ、今期比で改善する見通し。

【来期】(2022年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：▲ 7.9 (今期比+11.5㊦)

<内訳>

- ・よくなる 16.2% (今期比+ 5.2㊦)
- ・悪くなる 24.1% (今期比▲ 6.3㊦)
- ・変わらない 59.7% (今期比+ 1.1㊦)

<業種別>

- ・今期比改善：6業種全て (『建設業』『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』)

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲ 9.4 (前期比▲ 1.1㊦)

4業種で悪化

収益BSI：▲23.7 (前期比▲12.9㊦)

5業種で悪化

【来期】

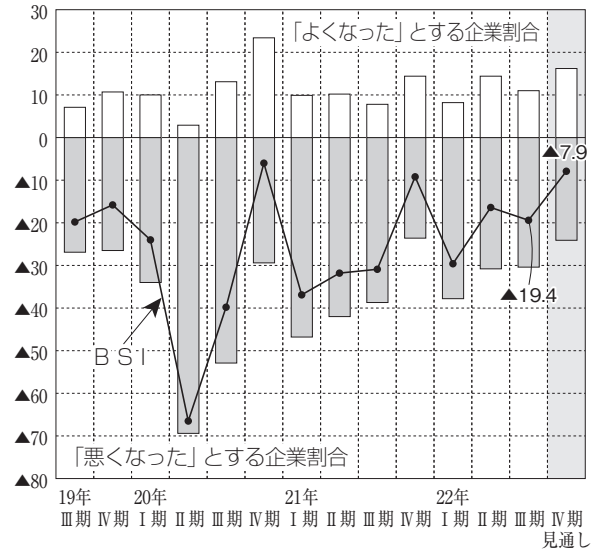
売上高BSI：▲ 2.6 (今期比+ 6.8㊦)

5業種で改善見通し

収益BSI：▲12.2 (今期比+11.5㊦)

4業種で改善見通し

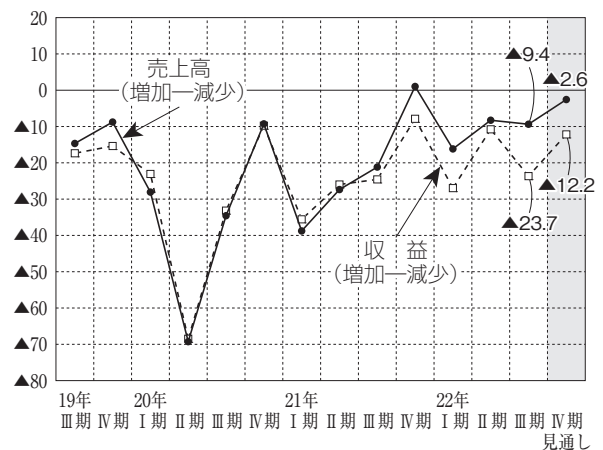
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2022年 Ⅰ期	2022年 Ⅱ期	2022年 Ⅲ期	2022年 Ⅳ期見直し
建設業	▲11.5	▲18.5	▲28.0	▲24.0
製造業	▲20.0	▲36.0	▲15.1	3.0
卸・小売業	▲34.6	▲28.6	▲40.4	▲31.9
金融・不動産業	▲40.0	0.0	▲11.1	11.1
運輸業	▲21.5	▲14.3	▲16.6	0.0
サービス業	▲55.9	30.6	6.4	9.7
全産業	▲29.6	▲16.4	▲19.4	▲7.9

売上高と収益 (B S I)



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間 B S I : ▲ 4.8 (前期比 + 10.9%)
3 業種で上昇

雇用者数の現状 B S I : ▲ 32.5 (前期比 ▲ 6.5%)
2 業種で低下

【来期】

所定外労働時間 B S I : ▲ 1.6 (今期比 + 3.2%)

◎経営上の問題点

- 1 位 : 「売上不振」 (30.3%)
- 2 位 : 「原材料仕入価格高騰」 (27.0%)
- 3 位 : 「人手不足」 (14.6%)
- 4 位 : 「人材不足」 (8.6%)
- 5 位 : 「競争激化」 (7.6%)

業種別にみると、「売上不振」と回答した割合は、『卸・小売業』が37.8%と特に高い。「原材料仕入価格高騰」は『製造業』で35.5%と最も高くなっている。

◎設備投資実施割合

【今期】

実施企業の割合 : 37.7% (前期比 + 1.8%)
5 業種で増加

<投資目的>

- 1 位 : 「補修・更新」 (70.8%)
- 2 位 : 「生産能力の拡大・売上増加」 (9.7%)
- 3 位 : 「合理化・省力化」 (6.9%)

【来期】

実施予定企業の割合 : 35.6% (今期比 ▲ 2.1%)
3 業種で減少見通し

<投資目的>

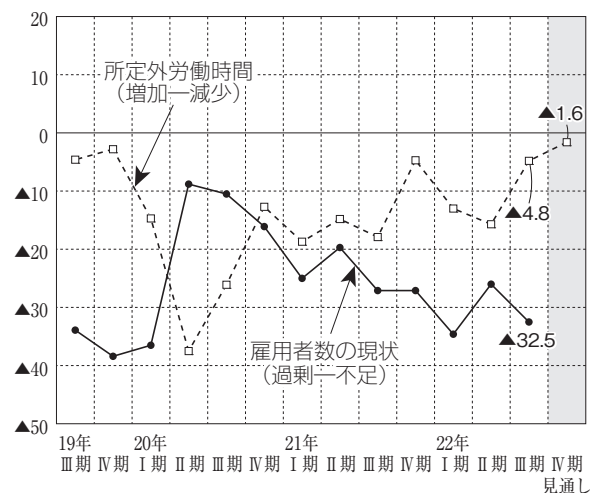
- 1 位 : 「補修・更新」 (65.7%)
- 2 位 : 「生産能力の拡大・売上増加」 (16.4%)
- 3 位 : 「合理化・省力化」 (9.0%)

◎「20年ぶりの円安進行に関する影響」について

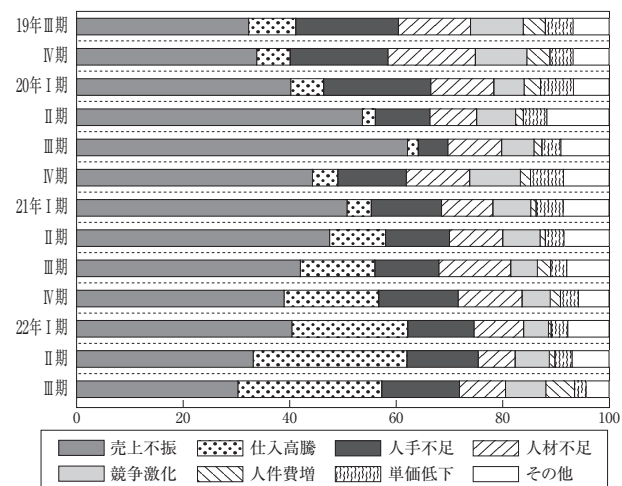
今回の調査において、「20年ぶりの円安進行に関する影響」について尋ねたところ、「マイナスの影響がある」が32.5%、「ややマイナスの影響がある」が26.7%、「影響はない」が17.3%、「分からない」が16.2%、「ややプラスの影響がある」が3.1%、「プラスの影響がある」が2.1%となった。

業種別にみると、「マイナスの影響がある」と回答した割合は、『製造業』が39.4%と最も高く、次いで『卸・小売業』が36.2%、『建設業』が36.0%となった。

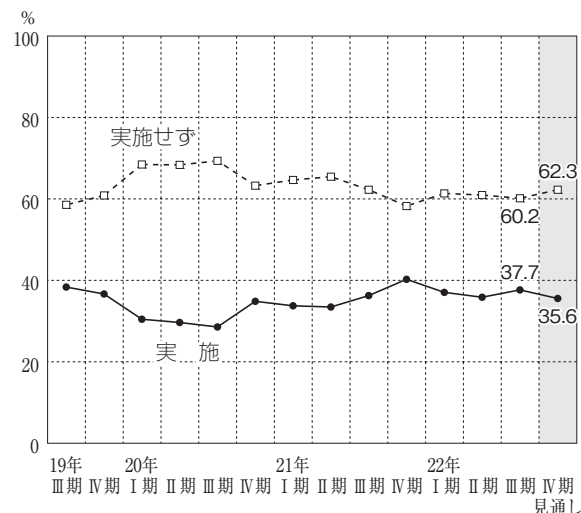
所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



経営上の問題点 (%)



設備投資実施割合



2 期ぶりに改善

◎業況判断

【今期】(2022年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断 B S I : ▲15.1 (前期比+20.9㊦)

<内訳>

- ・よくなった 18.2% (前期比+11.6㊦)
- ・悪くなった 33.3% (前期比▲9.3㊦)
- ・変わらない 48.5% (前期比▲2.3㊦)

<業種別>

- ・前期比改善：5業種（「化学・石油」「鉄・非鉄・金属」「機械」「印刷・出版」「その他」）
- ・前期比悪化：2業種（「食料品」「木材・家具」）
- ・前期比不変：1業種（「窯業・土石」）

業況判断 BSI は、感染症の影響により需要が減少した「食料品」が悪化した一方、自動車の生産台数の回復で受注が増加した「機械」など5業種で改善し、全体としても改善した。ただし、経営上の問題点として原材料仕入価格高騰を挙げる企業の割合は依然として高い。

【来期】(2022年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断 B S I : + 3.0 (今期比+18.1㊦)

<内訳>

- ・よくなる 21.2% (今期比+3.0㊦)
- ・悪くなる 18.2% (今期比▲15.1㊦)
- ・変わらない 60.6% (今期比+12.1㊦)

<業種別>

- ・今期比改善：6業種（「鉄・非鉄・金属」「機械」「食料品」「木材・家具」「窯業・土石」「その他」）
- ・今期比不変：2業種（「化学・石油」「印刷・出版」）

売上高、収益が改善するとの見方から、業況判断 BSI は改善する見通し。業種別では、6業種が今期比で改善の見通しであり、特に「食料品」「木材・家具」が全体の業況判断 BSI 上昇に寄与している。

◎売上高と収益

【今期】

売上高 B S I : ▲6.0 (前期比+15.3㊦)

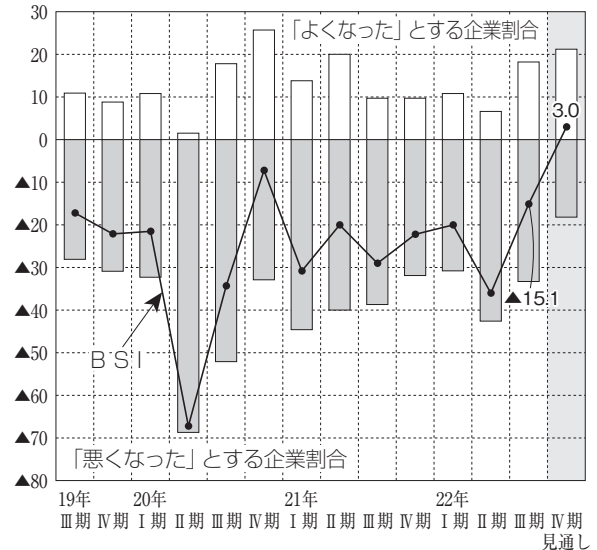
収益 B S I : ▲28.8 (前期比+10.5㊦)

【来期】

売上高 B S I : + 1.5 (今期比+7.5㊦)

収益 B S I : ▲12.1 (今期比+16.7㊦)

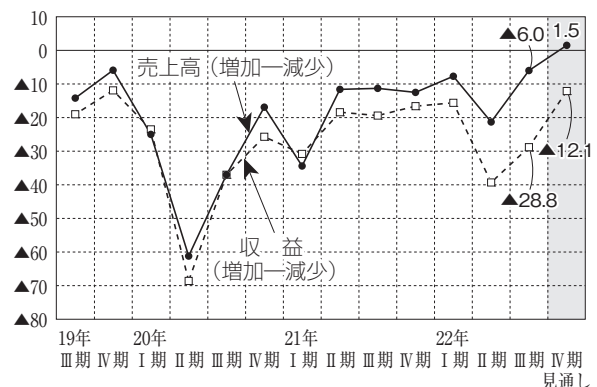
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2022年 Ⅰ期	2022年 Ⅱ期	2022年 Ⅲ期	2022年 Ⅳ期見通し
化学・石油	▲20.0	▲33.3	50.0	50.0
鉄・非鉄・金属	11.1	▲44.4	0.0	12.5
機 械	▲6.3	▲50.0	5.5	11.1
食 料 品	▲53.8	18.2	▲33.3	▲13.4
木材・家具	0.0	0.0	▲75.0	0.0
印刷・出版	▲20.0	▲80.0	▲50.0	▲50.0
窯業・土石	0.0	▲33.3	▲33.3	0.0
そ の 他	▲50.0	▲66.7	▲12.5	25.0
製 造 業	▲20.0	▲36.0	▲15.1	3.0

売上高と収益 (B S I)



卸売業は悪化、小売業は改善

◎業況判断

【今期】(2022年7～9月期〈Ⅲ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI : ▲36.4 (前期比▲36.4㊦)

＜内訳＞

- ・よくなった 4.5% (前期比▲13.7㊦)
- ・悪くなった 40.9% (前期比+22.7㊦)
- ・変わらない 54.5% (前期比▲9.1㊦)

『小売業』

業況判断BSI : ▲44.0 (前期比+7.9㊦)

＜内訳＞

- ・よくなった 4.0% (前期比+0.3㊦)
- ・悪くなった 48.0% (前期比▲7.6㊦)
- ・変わらない 48.0% (前期比+7.3㊦)

卸売業は売上高BSI、収益BSIがともに悪化し、業況判断BSIも悪化した。小売業では業況判断BSIは改善したが「よくなった」と回答した企業はごくわずかだった。

【来期】(2022年10～12月期〈Ⅳ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI : ▲45.5 (今期比▲9.1㊦)

『小売業』

業況判断BSI : ▲20.0 (今期比+24.0㊦)

業況判断BSIは、卸売業では仕入価格高騰による影響への懸念から悪化、小売業では感染症の影響が和らぐとの見方から改善する見通しである。

◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲23.8 (前期比▲28.3㊦)

収益BSI : ▲38.1 (前期比▲29.0㊦)

【来期】

売上高BSI : ▲38.1 (今期比▲14.3㊦)

収益BSI : ▲38.1 (今期比±0.0㊦)

◎小売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲20.0 (前期比▲1.5㊦)

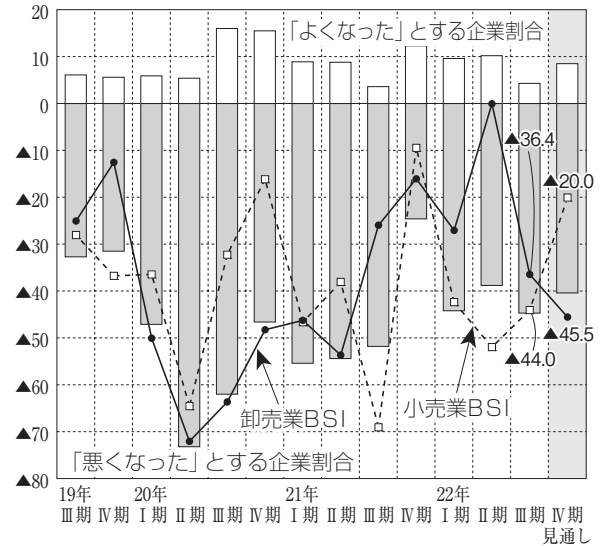
収益BSI : ▲48.0 (前期比▲29.5㊦)

【来期】

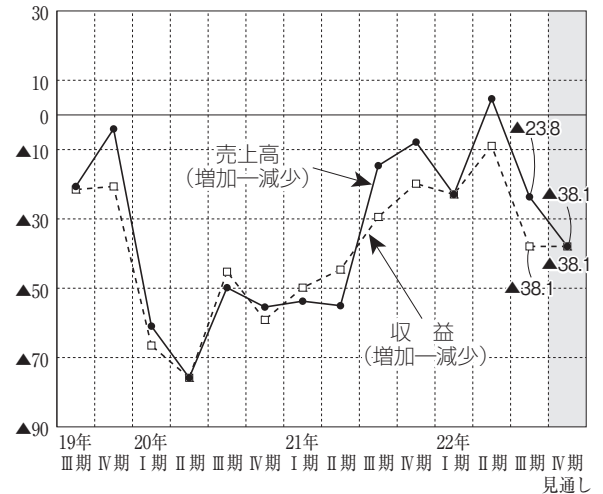
売上高BSI : ▲4.0 (今期比+16.0㊦)

収益BSI : ▲12.0 (今期比+36.0㊦)

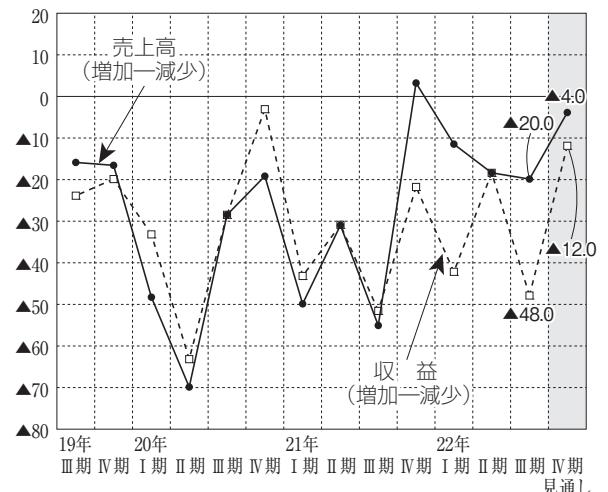
業況判断 (B S I)



【卸売業】売上高と収益 (B S I)



【小売業】売上高と収益 (B S I)



2期連続で悪化

◎業況判断

【今期】(2022年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲28.0（前期比▲9.5㊦）

<内訳>

- ・よくなった 0.0%（前期比±0.0㊦）
- ・悪くなった 28.0%（前期比+9.5㊦）
- ・変わらない 72.0%（前期比▲9.5㊦）

前期と同様、業況が「よくなった」と回答する企業はなかった。一方、「悪くなった」と回答する企業の割合は上昇し、業況判断BSIは2期連続の悪化となった。

経営上の課題としては、仕入高騰と人手不足を挙げる企業の割合が高くなっている。

【来期】(2022年10～12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI：▲24.0（今期比+4.0㊦）

<内訳>

- ・よくなる 4.0%（今期比+4.0㊦）
- ・悪くなる 28.0%（今期比±0.0㊦）
- ・変わらない 68.0%（今期比▲4.0㊦）

来期の業況判断BSIは今期よりわずかに改善しているものの、材料費や燃料費の高止まりから引き続き厳しい状況が続く見通しとなっている。

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲12.0（前期比+18.8㊦）

収益BSI：▲24.0（前期比▲12.4㊦）

売上高BSIは前期よりも改善した一方、収益BSIは悪化した。

【来期】

売上高BSI：▲12.0（今期比±0.0㊦）

収益BSI：▲28.0（今期比▲4.0㊦）

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

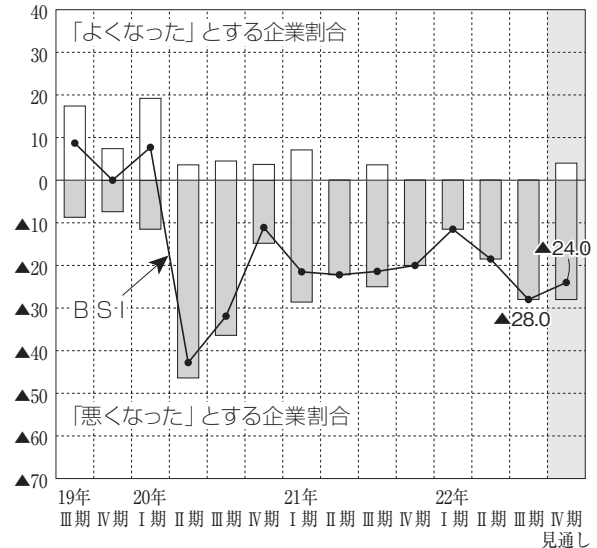
所定外労働時間BSI：▲20.0（前期比+10.8㊦）

雇用者数の現状BSI：▲66.7（前期比+4.7㊦）

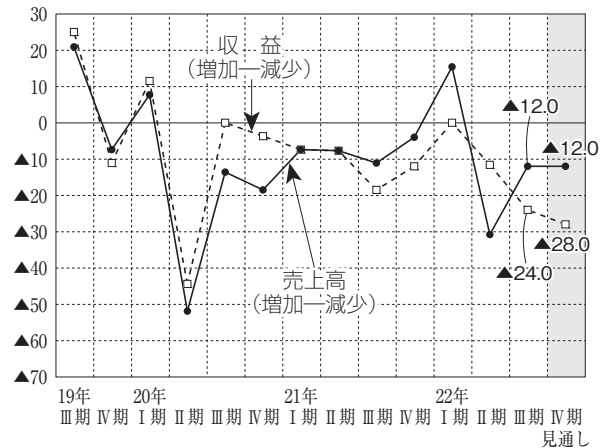
【来期】

所定外労働時間BSI：▲8.0（今期比+12.0㊦）

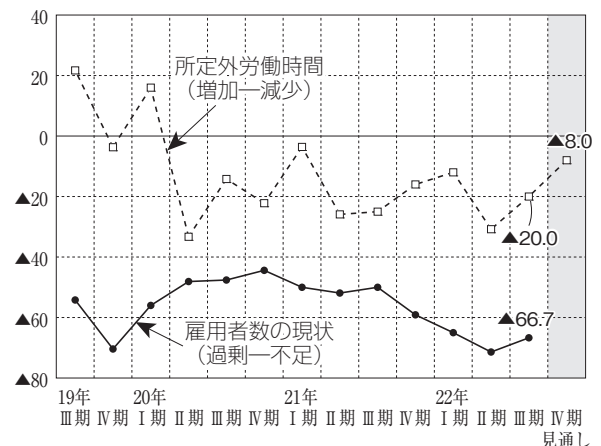
業況判断（BSI）



売上高と収益（BSI）



所定外労働時間と雇用者数の現状（BSI）



2期連続のプラス水準

◎業況判断

【今期】(2022年7~9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI : + 6.4 (前期比▲24.2ポイント)

<内訳>

- ・よくなった 12.9% (前期比▲28.8ポイント)
- ・悪くなった 6.5% (前期比▲4.6ポイント)
- ・変わらない 80.6% (前期比+33.4ポイント)

業況判断BSIは大幅に改善した前期と比較して悪化した、「悪くなった」との回答はごくわずかで、2期連続のプラス水準となった。

サービス業のうち観光関連の17社では、「よくなった」と回答した企業は前期比57.4ポイント減の17.6%、「悪くなった」と回答した企業は前期比11.8ポイント増の11.8%だった。観光関連は回復基調にあるが、感染症再拡大の影響からそのペースは鈍化している。

観光関連以外の14社では、「よくなった」と回答した企業が7.1%、「悪くなった」と回答した企業はなかった。

【来期】(2022年10~12月期〈Ⅳ期〉)

業況判断BSI : + 9.7 (今期比+ 3.3ポイント)

<内訳>

- ・よくなる 25.8% (今期比+12.9ポイント)
- ・悪くなる 16.1% (今期比+ 9.6ポイント)
- ・変わらない 58.1% (今期比▲22.5ポイント)

◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : + 3.2 (前期比▲21.8ポイント)

収益BSI : + 6.5 (前期比▲29.6ポイント)

【来期】

売上高BSI : +16.2 (今期比+13.0ポイント)

収益BSI : + 9.6 (今期比+ 3.1ポイント)

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

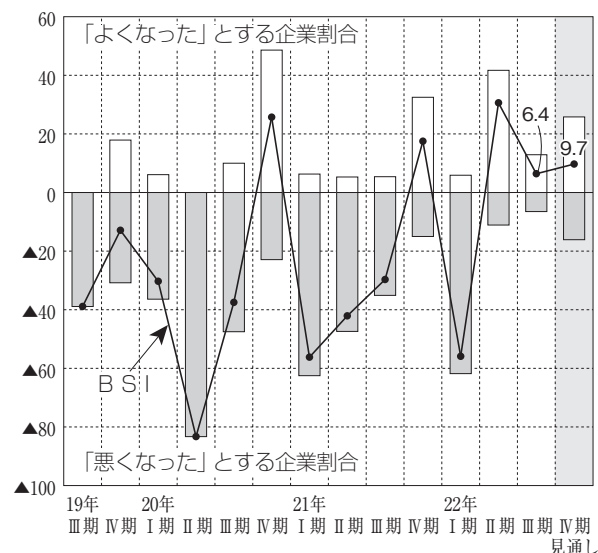
所定外労働時間BSI : +12.9 (前期比+ 7.2ポイント)

雇用者数の現状BSI : ▲32.2 (前期比▲15.5ポイント)

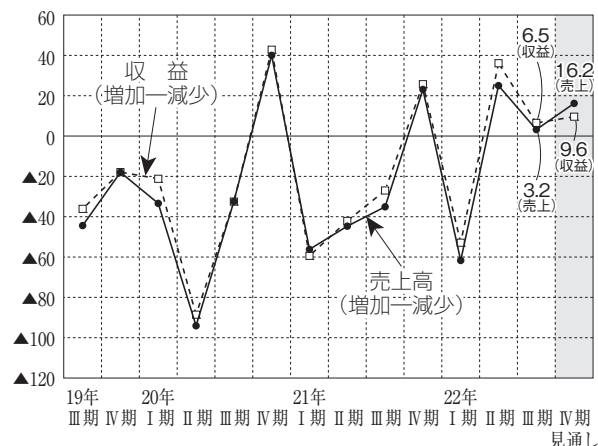
【来期】

所定外労働時間BSI : +12.9 (今期比± 0.0ポイント)

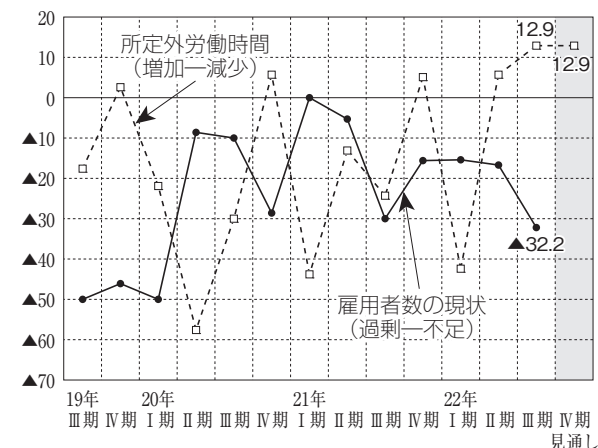
業況判断 (B S I)



売上高と収益 (B S I)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①[よくなる]+[変わらない]+[悪くなる]=100%とする

②[変わらない]の回答分を除く

③ $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 2022年8月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業429社

◎回答企業数 191社

・回答率 44.5%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	8.4%
資本金1千万円～1億円未満	64.4%
資本金1億円以上	15.2%
無回答	12.0%